

農地・水・環境保全向上対策

活動レポート

2011

～水土里の資源を次世代へ～



大分県農地・水・環境保全活動地域協議会

それぞれができること

それぞれのふるさとで

それぞれの未来へ

広報・啓発
活動部門

農地、農業用水路など農村の環境は国民共有の財産であり、次の世代に良好な状態で引き継いでいく必要があります。

しかし、高齢化や農家以外の方との混住化が進み、農村の「まとまり」が弱まる中、農地や農業用水路などの保全が難しくなっています。

そのような中、良好な農村環境の保全や環境に配慮した農業生産への取り組みを支援する「農地・水・環境保全向上対策」が平成19年度にスタートしました。

国は、平成23年度から農業用水路や農道などの機能を向上させる活動を支援する項目を加え、農村環境の保全を強化し、名称を「農地・水保全管理支払」に改めました。

農業者だけではなく、地域住民と一緒に農村の良好な保全や環境の向上を図るため県下のさまざまな活動の中から7つの取り組みを紹介します。

新農村環境
対策部門

耕作放棄地
対策部門

環境負荷軽減
部門



日出町

環境を考える子どもたちの未来へ

かた はら つ く の う そん かん きょう ほ ぜん かい ぎ
片原津区農村環境保全会議

広報・啓発
活動部門



子どもたちとともに農業体験を通じ農村環境を保全

本活動組織は、昭和時代に3集落（片上集落・大原集落・高津集落）が合併した自治区内の各団体や農業者から構成され、次第に増える休耕田の復元に取り組んでいます。

また、地域の子どもたちや地域外に住む親族の子どもたちに田植えや稲刈り等の農作業体験をさせることで、世代を超えた交流が始まっています。

稲作体験ではAPUの留学生も交えた餅つきを行うことから、国際交流に発展しています。ついた餅は、ひとり暮らしの老人にも配ることから、老人にも笑顔がこぼれてきました。

さらに、子どもたちが自ら考え作った環境を守る看板を地域の各所に設置したことで、子どもたちに環境を守る意識が高まっています。

(APU: 立命館アジア太平洋大学)



対象資源

農地 水田 22.4ha

農業用施設 用排水路 8.5km
農道 6.2km

組織の構成

- 各農業者 ○7の水利組合 ○片原津老人クラブ
- 片原津子供育成会 ○農道管理組合高津班 ○農道管理組合大原班
- 農道管理組合片上班 ○片原津自治会



大分市 それぞれの団体が協力して守り続けてきたふる里を未来へ

き さ がみ し げん ほ ぜん すい しん きょう ぎ かい
木佐上資源保全推進協議会

耕作放棄地
対策部門



地域の活性化の取り組みを更に強化

自治会をはじめ、農事法人など、地区内にある既存の団体をすべて取り込み、住民総参加で取り組んでいるこの組織は、地域の活性化を目指す団体「木佐上コミュニティ」が主体となり、地域の小学生に赤米（古代米）の舂りから収穫までの農作業を体験させています。

この農作業体験は、小学生やPTAともよく連携が図られ、地域住民の結束の強さがうかがわれます。

また、この制度に取り組むことにより、別々の農業用水の管理を行っていた9つの水利組合が、お互い協力して水路の修理を行うようになってきました。

それぞれの団体が、それぞれできることを行い、耕作放棄地の解消など、いろいろな取組で地域を守っています。



対象資源

農地	水田	32.8ha	農業用施設	用排水路	22.2km
	畑	0.8ha		農道	4.1km
				ため池	9ヶ所

組織の構成

- 木佐上農事組合法人 ○9の水利組合 ○5の自治会 ○老人クラブ
- 木佐上コミュニティ ○クリーン推進委員 ○婦人会
- 木佐上小学校PTA



佐伯市 自治区を越えた取組で美しいレンゲ畑を未来へ

おき つる たけその なかづる かわち ちくほ ぜんかんりくみあい
沖の津留・竹園・中津留河内地区保全管理組合

住民との交流
部門



自治区を越えた祭を通して芽生えた自治区間の連携

久留須川周辺の谷間にある5つの自治区は、水系毎の3つの活動組織で農地を守っています。

これらの組織は、農地にも役立つ「レンゲ」で地域を美しくする取り組みを行っています。

広いレンゲ畑を交流に活用する「レンゲ祭り」を立案し、地域住民のそれぞれができることで協力し祭をつくりあげたことで、5つの自治区民が一体となりました。

これにより別々に行っていた老人会を一緒に開催する等、広域の連携ができつつあります。

また、草刈りの回数が増え、住民の農村環境への関心も高まっています。

対象資源

農地	[沖の津留地区]	[竹園地区]	[中津留河内地区]
水田	5.7ha	7.9ha	5.0ha
畑	0.2ha	0.1ha	0.5ha
農業用施設	[沖の津留地区]	[竹園地区]	[中津留河内地区]
用排水路	2.4km	4.8km	2.2km
農道	0.3km	1.4km	0.7km

組織の構成

- [沖の津留地区]
- 各農業者 ○間庭区自治会
- 大分県なごみ園 ○サロン（なごみ）
- [竹園地区]
- 各農業者 ○竹ノ下地区自治会 ○園地区自治会
- [中津留河内地区]
- 各農業者 ○直川中津留地区自治会



豊後大野市

芝桜が紡ぐ地域の繋がりを未来へ

おおのまち

ほぜんたい

大野町みどり保全隊

住民との交流
部門



芝桜の植栽が景観を創造し、連帯感を深める

大野町の概ね全域の畑を保全の対象としたこの組織は、畑の法面などを利用して芝桜を植える取り組みを行っています。

この活動は景観保全はもとより、農作業で多くの時間を必要とする草刈り作業の軽減にも繋がっています。

また、共同で芝桜を植えることで、地域の連帯感が深まってくるとともに、芝桜の管理を高齢者にお願いすることで、高齢者の生き甲斐にもなっています。

今後も、芝桜を計画的に植え、更なる景観の保全に取り組むことで地域の活性化を目指しています。

地域住民は芝桜の絨毯を夢見ています。



対象資源

農地	水田	5.9ha	農業用施設	用排水路	0.5km
	畑	525.0ha		パイプライン	153.0km
				農道	120.0km

組織の構成

○各農業者 ○26の自治会 ○大野町土地改良区



玖珠町

住民が守るきらめく水を未来へ

玖珠町環境保全組合

教育機関との
連携部門



自分たちの水路としての意識の芽生え

広範囲の水田を対象としているこの組織は、農業用水を管理する専門家である玖珠町土地改良区の職員が中心となり、水路の保全を柱とした取り組みを行っています。

また、婦人会や地域住民が一体となり、農道に花を植えたり、耕作放棄地を利用して、小学生と一緒にソバを栽培する等、地域ぐるみの活動を展開しています。

この制度を活用することで、水路の泥上げ等の作業が地域住民の参加により出来るようになりました。農家以外の人も水路の作業に携わることで、「自分たちの水路」という意識が芽生えてきています。

この地域の水路は、きれいに保たれ、流れる水は煌めいています。



対象資源

農地	水田	314.1ha	農業用施設	用排水路	163.4km
				農道	89.2km
				ため池	5ヶ所

組織の構成

○各農業者 ○92の自治会 ○92の婦人会 ○塚脇小学校
○八幡小学校 ○北山田小学校 ○日出生小学校 ○玖珠町土地改良区



宇佐市

子どもたちが親しむきれいな水路を未来へ

しもじょう いちく かんきょう ほぜん きょうぎ かい 下城井地区環境保全協議会

環境負荷軽減
部門



水の大切さを子どもに伝え、未来を託す取り組み

この組織は、以前から生活排水の浄化に取り組む等、環境保全の意識が高く、子どもたちに水路で魚とりを体験させ、普段から水路とのふれあいを大事にしています。

また、水はどこから来ているのか知ってもらい、米を作るための苦労をわかってもらうため、子どもたちを対象にした水路の取入口やダムの見学会も行っています。

これらの取り組みは、次の世代にも地域を守ってもらいたいとの願いが込められています。

排水路では、平坦な地形なため土砂が堆積しやすい状況でしたが、この制度による計画的な泥上げで、水の流れもよくなり、水田が乾きやすくなっています。

更に、水田周囲に花を植えたり、子どもたちが考えた環境を守る標語を看板にする等、地域ぐるみで保全に取り組む工夫をしています。



対象資源

農地

水田 50.9ha

農業用施設

用排水路

16.0km

農道

6.0km

組織の構成

- 各農業者
- 下城井自治会
- 下城井老人会
- 下城井婦人会
- 下城井ソフトクラブ
- 下城井子供会
- 宇佐土地改良区



竹田市

トキの舞う未来のふるさとへ

ゆめ かつ どう そ し き トキの夢活動組織

環境負荷軽減
部門



下流に住む人への思いやり

この活動組織は山間地域に位置しているため、汚れた水を流すと下流地域に影響を与えてしまいます。そのため環境保全への関心が高く、地域が一体となり水質を守る努力をしています。

代かきをするときには、泥水が流れ出ないようにしたり、レンゲや牛糞などをすき込んで土づくりを行うことで、化学肥料を減らしたりしています。

将来は、地域の米のブランド化を目指しながら、トキが舞い降りてくる里を夢見て取り組んでいます。



対象資源

農地

水田 33.6ha

農業用施設

用排水路

3.1km

畑 0.7ha

農道

5.2km

組織の構成

環境負荷軽減への取り組み

- 区域内対象農家数 19戸
- 取組農家数 19戸
- 取組率 100%

先進的(減農薬)への取り組み

- 区域内対象農家数 19戸
- 取組農家数 19戸
- 取組率 100%
- 実施面積 8.6ha

水土里の資源

向上活動について

農業用水路や農道などの寿命を長くするための補強などに地域ぐるみで取り組む活動を支援します。

共同活動について

農地や農業用水路、農道の草刈りや清掃、修理など地域ぐるみで取り組む活動や、農村の環境や景観を守る活動を支援します。

向上活動

共同

向上活動の取り組み

地域での取り組み内容

水路の補修（施設の長寿命化）



砂利舗装をアスファルト舗装へ



施設の長寿命化の取り組みを支援します。

共同活動の

地域での取り組み内容

①農地の保全



畦（あぜ）の草刈り

②施設の保全



水路の泥上げ

③農村資源の長寿命化



水路の目地補修

④地域ぐるみの環境活動



地域住民によるピオトープ周辺の植栽



健全な農村環境は貴重な財産

農村地域に住むみなさんが協力して農村環境を守る取り組みを支援します。

を次世代へ

営農活動

活動

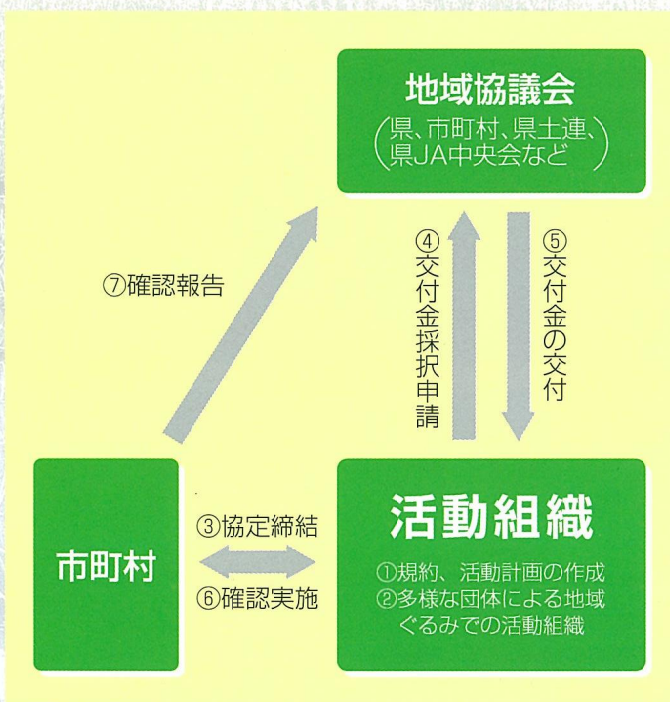
営農活動について

地域的なまとまりをもって、化学肥料や化学合成農薬を半分以上減らしたり、にがり水を抑えるなどの環境に配慮した農業生産活動を支援します。

取り組み

支援の仕組み

市町村と協定を結んだ活動計画に基づき地域協議会から交付金が交付されます。



営農活動の取り組み

地域での取り組み内容

浅水代かきによるにがり水の流出抑制



緑肥のすき込みによる土づくり



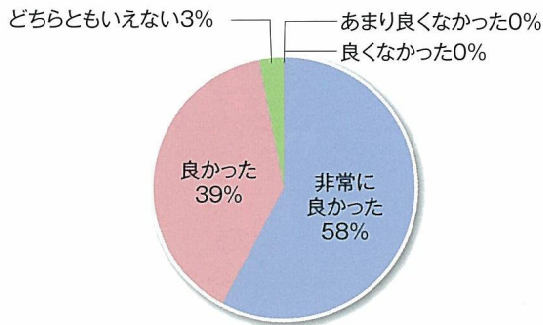
堆肥の散布



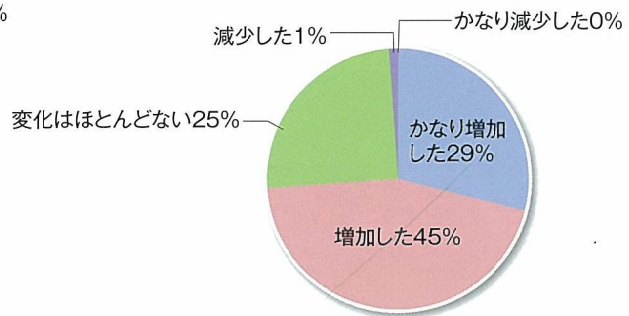
大分県での取り組みに対する効果【共同活動】

農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいる方々の思いをご紹介します。

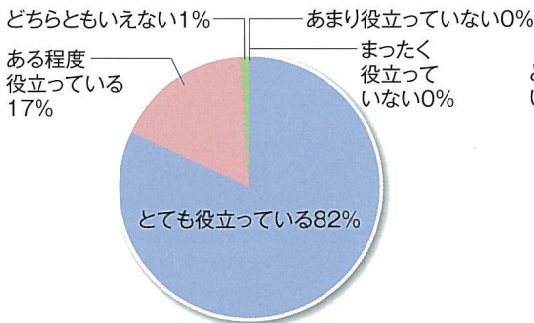
【取り組み】



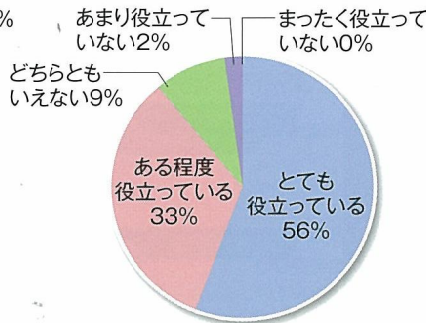
【取り組みの参加者】



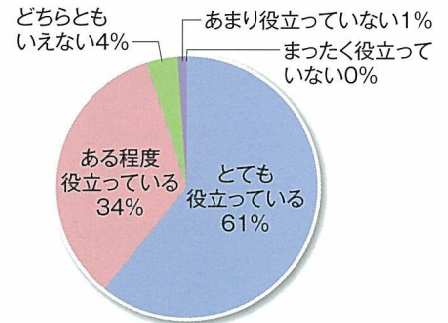
【農地や水路の保全】



【環境の保全】



【地域の活性化】



共同活動に取り組む人々の声

- ほとんどの地域で農業者の高齢化が進み、離農者も増加している中、施設の保全には、9割の組織が非農家の協力が必要と感じています。
このようななかで、自治会では82%、青壮年会や地域おこしグループなどでは69%が参画し、農家を含めた地域ぐるみの保全が行われています。
- 農業者以外の人も協力するようになりました。また連帯感が生まれ、子供会も環境問題のよい勉強になりました。
- 地域ぐるみでの取り組みについての話し合いや活動を通じて、地域で新たな交流が生まれ、地域の活性化につながっています。
- 水路が壊れる前に補修ができ大変助かっています。

営農活動に取り組む農家の声

- 交付金の活用により、実証圃を利用した新品種導入の試みなど、今後につながる有意義な取り組みが出来てます。
- 農家ぐるみで環境負荷低減に取り組むことにより、自然環境を保全する農家の意識が高まりました。

お問い合わせ

■国の機関
九州農政局整備部農地整備課
TEL 096-353-3561 (代表)

■県の機関
大分県農林水産部 農村整備計画課 農村環境保全班
// おおいたブランド推進課 安全農業推進班
TEL 097-536-1111 (代表)

■地域協議会
大分県農地・水・環境保全活動地域協議会
TEL 097-536-6631

■市町村の機関については農政担当窓口にお問い合わせください。